

関西電力株式会社：取締役会長 榊原 定征 様、取締役社長 森 望 様、
原子力事業本部長 松村 孝夫 様、高浜発電所長 木島 和夫 様

申し入れ書

福島原発事故から12年が経ちましたが、避難者の多くは今でも故郷を奪われたままです。事故収束の見通しは立たず、トリチウムだけでなく、除去されなかった放射性物質を含む大量の汚染水が太平洋にたれ流されようとしています。原発過酷事故は、被害の甚大さ、事故処理の困難さなどにおいて、他の事故とは比較にならないほど深刻です。

その原発が老朽化すれば、原子炉圧力容器の脆化や配管、配線の損傷などが進み、過酷事故の危険度が急増することは多くが指摘するところです。

また、原発を動かせば、何万年もの保管を要する使用済み核燃料がたまりませんが、その永久保管はおろか、中間貯蔵すら引き受ける所もないことは、貴関西電力（関電）がよくご存じのことです。関電は、何度も「使用済み核燃料の中間貯蔵地を福井県外に探す」と、期限を切って約束しましたが、その約束を全て反故にしています。一昨年2月にも、「2023年末までに候補地を提示できなければ、老朽原発を停止する」として、福井県知事の老朽原発再稼働への同意を取り付けましたが、いまだに候補地の目途はたっていません。

したがって、原発、とくに老朽原発を運転することが説得力を持つはずがありません。原発は、元、前原子力規制委員長も指摘するように、新規制基準に適合したからといって、安全が保障されているものではありません。

ところで、貴関電は、「原発マネー不正還流」不祥事を反省して、体制を一新したはずなのに、不祥事はその後も次々に発覚しています。

・2019年に発覚した「原発マネー不正還流」は、最悪の幹部腐敗です。役員など20名余が、高浜町の森山栄治元助役やその関連会社から計約3億6千万円の金品を平然と受け取り、しかもそれを隠そうとしてきました。その上、減額された役員報酬や追徴課税分の闇補填など、きわめて悪質です。

・2021年には、公正取引委員会が、関電のほか、中部電力と販売子会社の中部電力ミライズ、中国電力、九州電力の5社に対し、独占禁止法違反のカルテルの疑いで立ち入り検査を行いました。このカルテルを主導したのは、関電とのことですが、関電は課徴金を免れています。電力システム改革が目指す自由で公正な競争を否定するものです。課徴金を免れたからと言って、責任を取らなくて良いはずはありません。

・2022年には、関電の小売部門が、子会社の関西電力送配電の情報に不正アクセスしていたという報道がありました。その後、不正閲覧は、広範に行われていたことが判明しています。経産省サイトの新電力情報の不正閲覧も指摘されています。電力システム改革の根本を否定する違法行為によって得た情報を、自社営業活動に利用することについて、何の疑問も抱かなかつたのでしょうか。

・2022年には施工管理技士の国家資格の不正取得、2023年には関西電力送配電が法律で義務付けられた電圧の測定を怠り記録を捏造していたことが、報道されています。

このように、関電は、企業倫理、法令順守の精神に著しく欠けた企業であるとの誹りは免れません。

このような企業が、ひとたび過酷事故が起これば、極めて広範囲、長期にわたって甚大な災害をもたらす原発を「事故なく運転する」と主張しても、信用できる筈がありません。事実、過酷事故には至っていないものの、関電の原発では、トラブルが頻発しています。

なぜ、このように不祥事、約束違反、トラブルが多発するのでしょうか？

それは、本来、現在科学技術で制御できない原発を、無理矢理稼働させようとするから、人々を欺かなければならなくなり、そこに闇の部分が発生するためではないでしょうか？

このことを福島原発事故直後にいち早く認識したドイツは、その後、脱原発を進め、再生可能エネルギーの割合を2割から5割に増加させ、去る4月15日に脱原発を達成しています。一方、福島原発事故の当事国・日本は、原発維持に固執したため、再生可能エネルギーの割合は、1割から2割に増加させたに過ぎません。福島事故後のエネルギー政策の失敗の結果、脱原発の流れに乗り遅れたのです。岸田政権や関電はその失敗を取り繕うために、さらに大きな過ち「原発依存社会」に向かって暴走しています。奈落の底「原発過酷事故」に突き進んでいるのかも知れません。

ところで、今、電気は足りています。余っています。電力がひっ迫するのは、1年のうちの数日です。それも1日の中の数時間です。このような一時的な電力ひっ迫は、節電によって乗り切れます。このことは昨年3月の地震と寒波に起因する東北、東京エリアでの電力不足、6月末から7月にかけての猛暑による電力不足を、節電で乗り越えた実績が証明しています。したがって、放射線被ばくを強い、子々孫々にまで負の遺産・使用済み核燃料を残す原発を稼働させる必要は全くありません。

私たちは、貴関電も、ドイツ、イタリア、台湾と同様に一刻も早く原発と決別し、自然エネルギーの活用で世界をリードする電力会社へと脱皮されることを期待し、以下を申し入れます。

- 【1】危険極まりない老朽原発・美浜3号機の運転を中止し、老朽原発・高浜1、2号機の再稼働、高浜原発3、4号機の40年超え運転を断念し、これらの原発の即時廃炉を決定してください。
- 【2】原発を動かせば、行き場がなく、子々孫々にまで負の遺産となる使用済み核燃料が増加します。貴関電の有する全ての原発を停止し、安全な廃炉を進めてください。
- 【3】一刻も早く原発と決別し、核燃料、化石燃料を使わない発電に転換してください。公益事業体として、環境の保全と人類の明るい未来のために、自然エネルギーによる発電法、大容量蓄電法、省エネ技術の開発と普及に努めてください。

なお、貴職らが、圧倒的な「老朽原発うごかすな！」の民意を蹂躪して老朽原発を稼働させ、重大事故が起こった場合、それは貴職らの故意による犯罪であり、許されるものではないことを申し添えます。

2023年4月29日

「関電よ 老朽原発うごかすな！ 高浜全国集会前段行動」参加者一同
(連絡先；木原：090-1965-7102)